

土屋守の

全国ぶらり旅

倉敷川はかつて、物資を積んだ川舟の往来で賑わっていたという。美観地区には江戸・明治時代につくられた建物が今も残る。

ガロアの酒場歩き「第12回」

岡山・倉敷編

9月1日、岡山県倉敷市で倉敷初となる「倉敷ウイスキーフォーラム2019」が開催される。フォーラムでは土屋編集長によるセミナーも行われ、ウイスキー文化研究所のブースも出展する。そこで今回は、フォーラムへの参加を予定している読者のために、倉敷の見どころ・食べどころをご紹介します。

文＝小川裕子
写真＝土屋守



ぶっかけ亭本舗 ふるいち仲店
岡山県倉敷市阿知2-3-23
☎086-422-2389
9:00～21:00
不定休



「うどん天下―決定戦」で2年連続全国優勝した実力店だ。

人気観光スポット 倉敷美観地区に初上陸

「腹が減ってはなんとやら、ですよ」。倉敷駅に着くやいなや、土屋守編集長はそう言って歩き出す。3分後、たどり着いたのは「ぶっかけ亭本舗ふるいち仲店」だった。老若男女で混み合う店内。「ここは、ぶっかけうどんの発祥のお店だね。この店のぶっかけうどんは、倉敷の人たちにとっていわばソウルフードなんだ」。編集長がたいそう詳しいのは、某人気テレビ番組、通称「ア○街」の倉敷編を見てしっかりと予習してきたからである。

オンエアを見て以来、ずっと食べたいと願っていた元祖「ぶっかけうどん」に、「口あたりはソフトだけどしっかりとしたコシがある麺に、少し甘めのつゆが最高!」と編集長はご満悦。軽快

な足取りで、倉敷の観光名所・美観地区へと向かう。

柳並木に彩られた倉敷川を川舟がゆったりと進んでいく。川沿いに軒を連ねるのはなまこ壁の土蔵に格子窓の町家。倉敷を訪れるのは実は初めてという編集長は、興味津々といった様子で歩き回り、精力的に写真を撮っている。しばらくして「倉敷アイビースクエア」にたどり着いた。赤レンガと蔦の緑のコントラストがフォトジェニックな建物は、もとは倉敷紡績所（現クラボウ）

倉敷アイビースクエア
岡山県倉敷市本町7-2
☎086-422-0011





トラットリアはしまや
 岡山県倉敷市東町2-4
 ☎086-697-5767
 11:30 ~ 13:30、18:00 ~ 21:30
 火曜定休



「食材から出る『だし』を大切に料理を心がけています」と語る楠戸さんは、南イタリアで食べたマンマの味に感動したのがきっかけでトラットリアを始めた。今冬にリニューアルオープン予定。

「はしまや」で 商家の暮らしに触れる

美観地区の東寄り、東町通り沿いに

米蔵には家族や使用人が食べるための米が保管されていたそう。コンサート、展示会などのイベントも行われる。

の工場だったという。実はこちらは、9月1日に開催される「倉敷ウイスキーフォーラム2019」の会場となっている。敷地内には、倉敷の工芸品や銘菓を扱うショップ、体験施設もあるので、参加者はぜひ楽しんでほしい。

楠戸家が営む「はしまや呉服店」がある。その脇の細い通路を進むと一軒のカフェがあった。「はしまや呉服店は明治2（1869）年に創業しました。1996年に呉服店を含む建物が『楠戸家住宅』として岡山県第1号の登録有形文化財に指定されて、これを機に、人が集まれる場所になりたいとオープンしたのがここ『夢空間はしまや』です」。こう話してくれたのは楠戸紀子

さん。築140年以上の米蔵を改装したという店内は陰影が実に美しい。おいしいアイスコーヒーと地元産のメロンを使ったスイーツをいただきながら、くつろぎのひとときを過ごした。

米を積んだ大八車を通ったという細い路地を戻り、東町通りを渡って「トラットリアはしまや」を訪ねた。「はしまや」でビンときた読者はご明察。こちらのシェフは楠戸家の6代目、楠戸伸太郎さんだ。100年の歴史ある古民家をリノベートした趣ある空間と、岡山の食材を使ったイタリア料理の数々が評判を呼び、市外はもちろん県外から足を運ぶお客さんも多いとか。

この日いただいた「手打ちのフジッリイカわたとえんどう豆のソース」も実に絶品で、「倉敷ウイスキーフォーラム2019」で講演をする予定の編集長は、「フォーラムのときにまた来るぞ!」と誓ったのだった。

美観地区にたたずむ 古民家再生バー

倉敷は人口に対してバーが多いという。そんなバーの街・倉敷でしっかりと飲みたいなら、「Salon de Ric's」をおすすめする。

古民家の蔵を再生したバーは、まさ

バーテンダーの藤原優さん（右）と土屋明日香さん（左）。



Salon de Ric's
 （サロン・ド・リックス）
 岡山県倉敷市本町5-27
 クラシキ庭苑 1階奥
 ☎086-425-5688
 18:00 ~ 24:00 無休

ケルティックマキアートは「MONIN CUP JAPAN 2014 シニア部門モナシ賞」を受賞している。



夢空間（サロン）はしまや
 岡山県倉敷市東町1-20
 ☎086-451-1040
 11:00 ~ 17:00 火曜定休

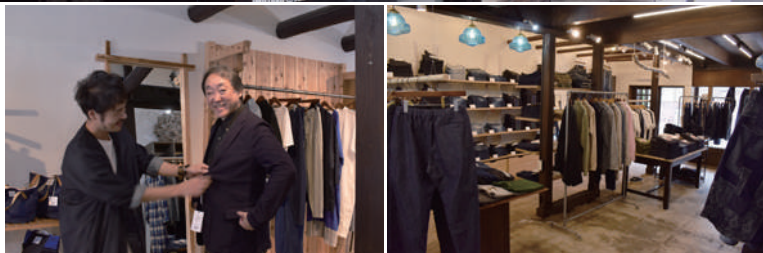


クッキーシューの中は地元産の足守メロン、塩キャラメルクリーム、アイスクリーム。

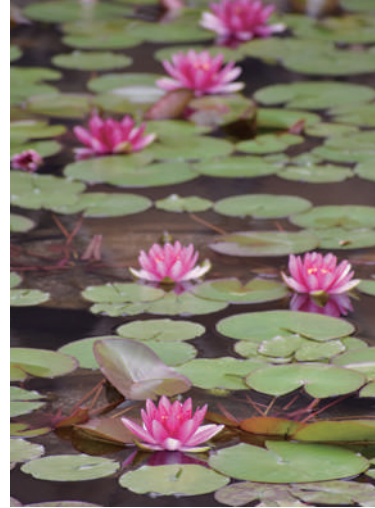




デニム研究所 倉敷店
岡山県倉敷市本町5-8
☎086-436-7347
10:00 ～ 19:00 不定休



「デニム研究所」を営むジャパンブルーは、“ジーンズの聖地”児島を拠点とするテキスタイルメーカー。デニムジャケット、ジーパンのほかTシャツ、シャツなどもそろそろ。



取材当日、フランス・ジヴェルニーにあるモネの日本庭園から株分けされたという睡蓮（モネが描いた「睡蓮」の子孫に当たる）が満開だった。

に大人の隠れ家といった雰囲気。アイラミストデラックスがベースのオリジナルカクテル「ケルティックマキアート」、乾燥ラベンダーをビーフィーターに漬けた「ラベンダーのバイオレットフィズ」を立て続けに飲み干した編集長は、ご機嫌に。バーテンダーの藤原優さんいわく、「これからの季節は契約農家さんから仕入れる桃やブドウを使ったカクテルもおすすめです」とのこと。来倉の折はぜひお試しあれ。

倉敷市民の誇り！ 日本初の私立美術館

2日目は「大原美術館」からスタート。大原美術館は、倉敷出身の実業家・大原孫三郎が、親父のあった画家・児島虎次郎を記念して設立した、日本初の私立美術館だ。モネの「睡蓮」、ゴッガンの「かぐわしき大地」、ピカソの「鳥籠」など世界の名だたる巨匠の作品を収蔵しており、その収集は、孫三郎の支援を受けた虎次郎が、画家本人と交渉して購入することから始まった。本館2階にはエル・グレコの「受胎告知」も展示されている。「倉敷が空襲されなかったのは、この『受胎告知』があったからという噂もあるんだって」と編集長。真偽のほどは不明ながら、

作品が放つ神々しさを前にすれば、「そんな噂が立つのも無理はない」と誰しもが納得するに違いない。

岡山ジーンズを買い 瀬戸内の魚介を食らう

芸術観賞の後はショッピングタイム。若かりし頃はジーンズをそれはもうかつこよく履きこなしていたのだと主張

「日本の画学生たちの教材となるものを」という想いから、虎次郎は収集を始めたという。江戸時代の米蔵を改装した工芸館・東洋館も必見！ 民芸や東アジアの古美術が展示されている。のれんは「語らい座大原本邸」のもの。



大原美術館
岡山県倉敷市中央1-1-15
☎086-422-0005
9:00 ～ 17:00（入館は16:30まで）
休館日：月曜、12月28 ～ 31日
※休館日が祝日、振替休日と重なった場合は開館。
7月下旬～8月、10月は無休
入館料：一般1,300円

する編集長は、「岡山といえば児島、児島といえばジーンズですよ」とのたまいつつ「デニム研究所」へ。同店は、国産デニムブランド・桃太郎ジーンズを手がける「ジャパンブルー」のブランド複合型ショップ。デニムジャケットに一目惚れした編集長は、速攻でお買い上げ。今後、デニムジャケットを着ている編集長を見かけたら、どうか「素敵なジャケットですね」と声をかけてあげてください。さて、物欲を満たしたら、食欲もしつかりと満たさなければ。瀬戸内海に面した倉敷にはおいしい魚介を食べられる店が数多くあるが、「なかでも、うまい地の魚を食べられると評判なのがここなんだって」。そう言って編集長は「浜吉」の暖簾をくぐる。「これからの時期はオコゼ、アコウ、ハモ、マナガツオ、マカリなんかがおすす。あとは下津井のタコ。あのあたりでとれるタコはちよつとマツチヨで、弾力も味もしつかりしています。乙島シャコもぜひ食べてみて。普通のシャコとは違って穴に潜る穴シャコなんだけど、殻ごと食べられるから」店主の高吉一夫さんに勧められるまま瀬戸内の海の幸を食べ、合間に地酒をぐびり。「あー幸せ…」としみじみつ

inBlue（インブルー）
岡山県倉敷市阿知2-23-9-3
林源十郎商店内
☎086-441-5070
10:00 ～ 18:00
月曜定休（祝日の場合は翌火曜）

倉敷を訪れたら、世界初のデニムスーツ専門店「inBlue」もぜひ立ち寄りたい。編集長は持ち合わせがなく、今回は泣く泣く購入を断念…。





取材当日はオーナーパーティーの松下知寛さんと、奥様の亜沙美さんが迎えてくれた。店名は、アイルランドの歌姫エンヤの曲名から。



DINING & BAR Dan Y Dwa(ダナドゥア)
岡山県倉敷市鶴形1-2-28
☎086-421-3270
月～木18:00～24:00、金土祝18:00～26:00
日曜定休

し、爽やかな味わいも初夏にぴったり」と編集長も太鼓判を押す。

2杯目は満を持してのウイスキー。選んだのは「シングルモルトウイスキー岡山」だ。「岡山蒸溜所はマッシュタンを新しくしたそうだから、次のウイスキーも楽しみだね」と編集長。「そうですね。地元のウイスキーをこれからも応援していきたいと思っています」と松下さん。

近年、ウイスキー蒸溜所が各地で誕生し、地域活性化への期待は大きい。ウイスキーのイベントも増えており、「倉敷ウイスキーフォーラム2019」開催の目的の1つには、平成30年7月

豪雨で被災した地域の復興支援があるという。ウイスキーが被災地の復興に、ひいては岡山のますますの振興に貢献できれば…。そう願う編集長であった。

翌日。「はるばる岡山まで来たんだから、岡山蒸溜所を素通りはできないよね」と、一行は岡山蒸溜所を訪問。新しくなったマッシュタンを見せてもらい、敷地内の「酒工房 独歩館」のレストランでランチをいただく。1日10食限定の「特製独歩カレー」を食べて、クラフトビールを飲んで…。ようやくウイスキーガロア版「ア〇街」の取材を終えた。

岡山蒸溜所は山陽本線「西川原・就実駅」から徒歩3分。倉敷からは25分ほどなので、ぜひ足を伸ばしてほしい。ルーにもライスにもクラフトビールを使っているというカレーは絶品！（1日限定10食）



宮下酒造 酒工房 独歩館
岡山県岡山市中区西川原185-1
☎086-270-8111
ショップ10:00～19:00、
レストラン11:30～21:00 (LO20:30)
水曜定休（祝日の場合は翌木曜）
※酒蔵見学をご希望の方は
事前にご予約ください。



ショーケースには職人が目利きした海の幸がずらり。人気店なので確実に入店したいなら予約がベター。

ぶやく編集長はこのまま腰を据えて飲みたそうにしている。しかし、弊誌はウイスキー専門誌である。編集長がウイスキーを一滴も飲まないまま旅を終えることは決して許されない。

**ウイスキーを通じて
復興・振興に貢献を**

というわけでやってきたのが「Dan Y Dwa」(ダナドゥア)。店長の松下知寛さんは、日本バーテンダー協会倉敷支部の支部長でもあり、「倉敷ウイスキーフォーラム2019」の副実行委員長でもある。編集長はまず、オリジナルカクテル「カクタスフラワー」をオーダー。テキーラをベースにコナツツ、イチゴのリキュール、オレンジーナ、ライムをあわせた一杯は、「2016ビームサントリーザ・カクテルアワード」において最高賞を受賞している。「南国の花を思わせる色合いが美しい



浜吉 (はまよし)
岡山県倉敷市阿知2-19-30
☎086-421-3430
11:30～14:00、17:00～22:00
月曜定休



下津井漁港で水揚げされた旬の鮮魚をいただける。乙島シャコの唐揚げは「見た目はかなり奇っ怪だけどソフトシェ尔みたいでおいしい」と編集長。